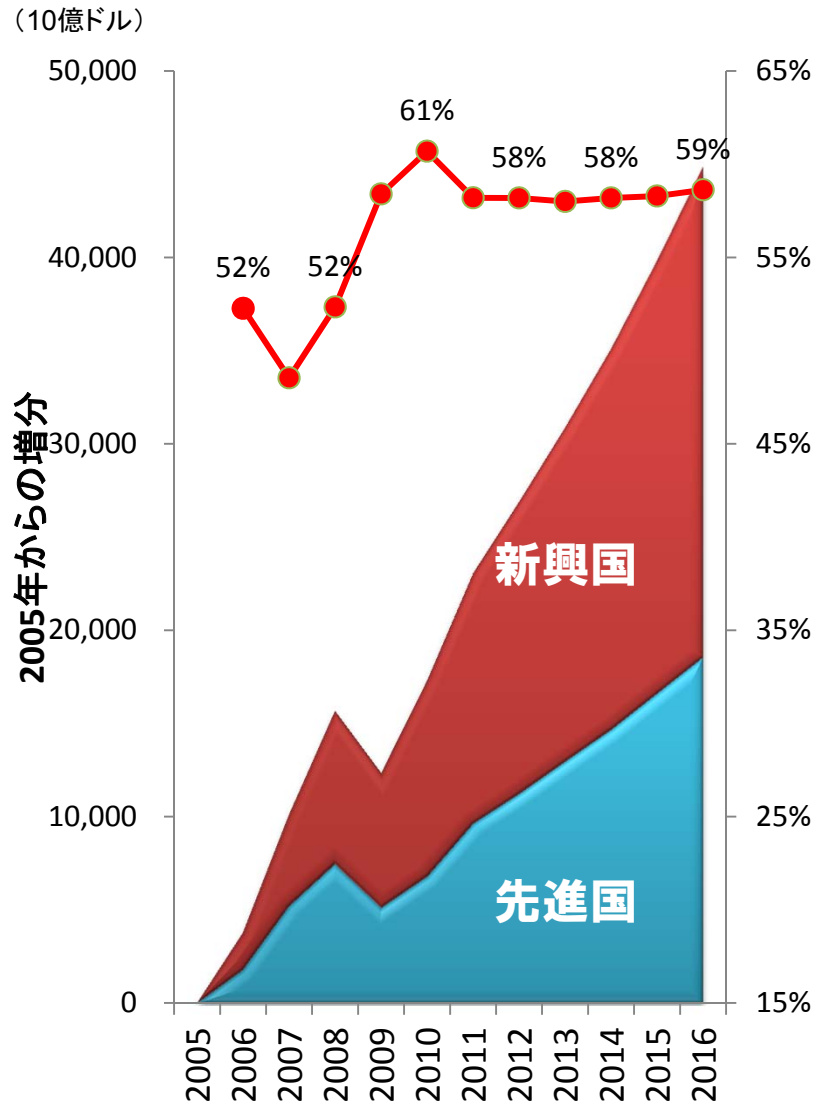


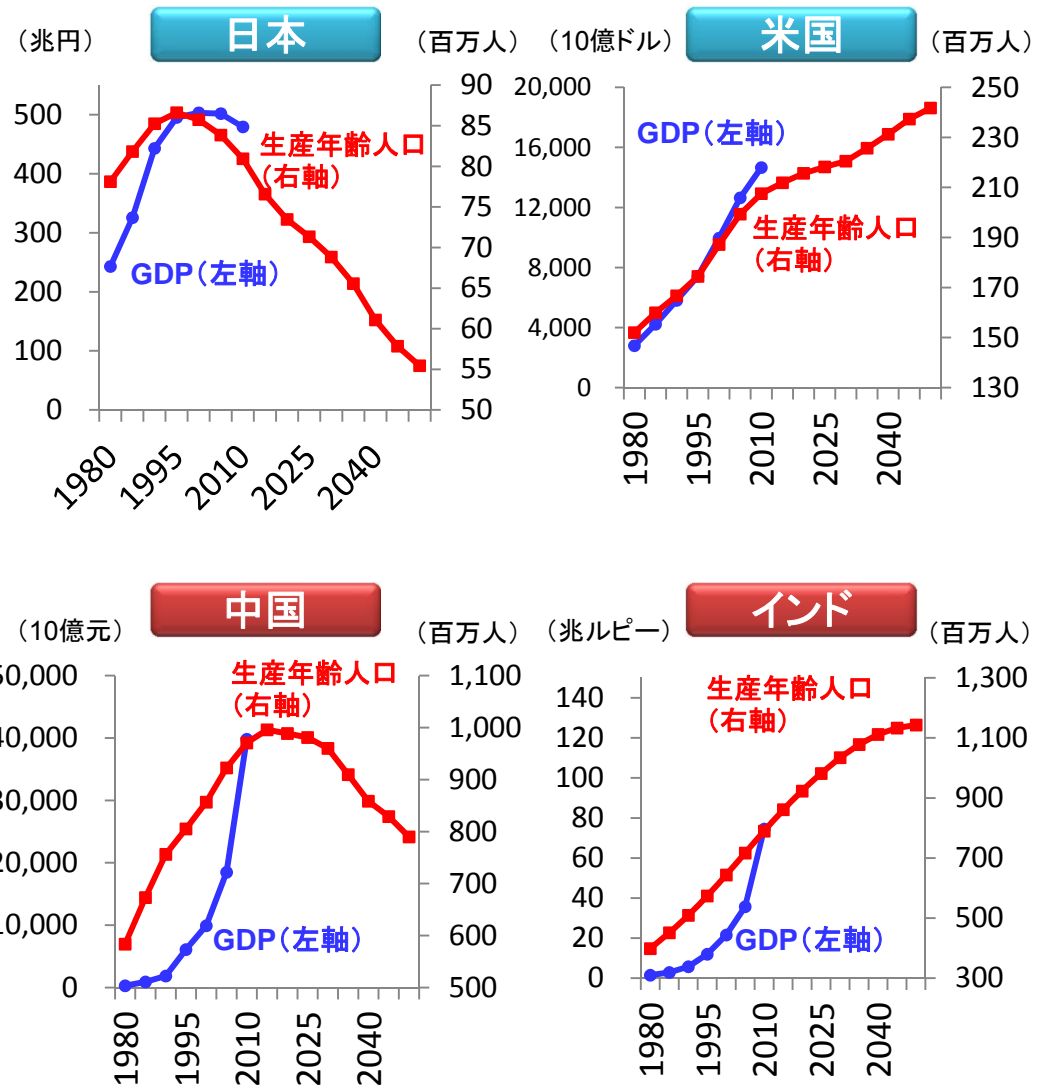
# 世界経済と日本の現状

資料8(長谷川議員提出資料)

## 2005年からのGDP増分



## 各国の生産年齢人口とGDPの関係



# 日本の経済成長戦略

成果が顕在化するまでの時間軸

短・中期

中・長期

## 《世界の成長のパイ獲得》

- 新興国でのプレゼンス強化
- 政官民一体となったインフラ輸出
- 経済連携協定 (TPP/FTA/EPA)
- 標準化・規格化でのリーダーシップ

## 《震災復興》

- 地方への財源・権限委譲 (地方に経営の視点を)
- 新たな国富を生むモデルづくり (特区制度活用)

## 《投下労働力増加》

- 少子化対策
- 労働市場改革 (女性・高齢者活躍促進)
- 海外高度人材の戦略的受け入れ

## 《投下資本増加》

- 経済連携協定の同時並行的推進
- 法人実効税率引き下げ
- 日本のビジネスインフラ整備

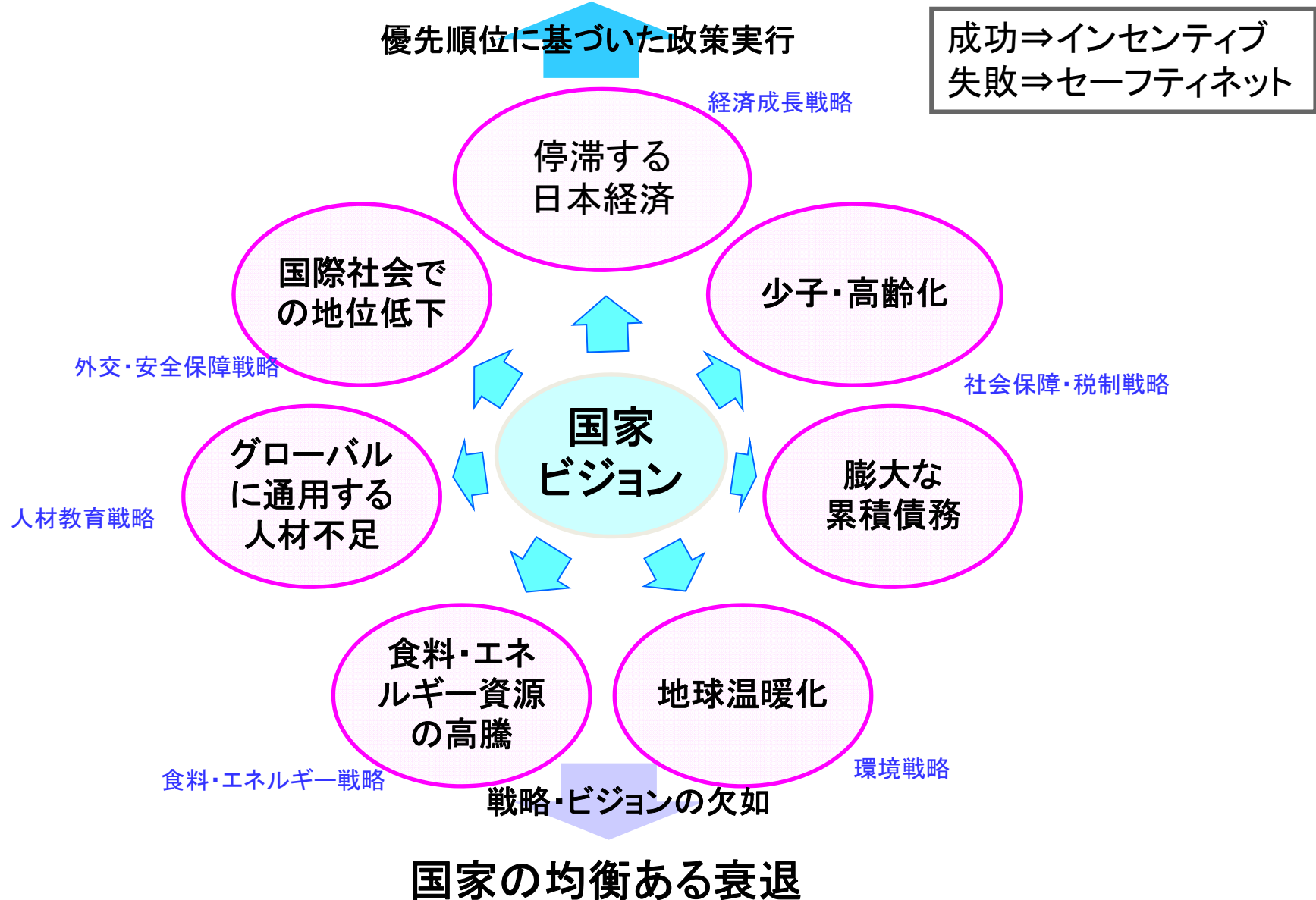
## 《イノベーションを通じた生産性向上》

- 産業構造転換、新陳代謝促進の仕組み
- グリーンテクノロジー、ヘルスケア分野への研究・開発予算の集中投下
- サービス産業の飛躍的な生産性向上とグローバル展開

規制・制度改革

# 国家ビジョンに基づく政策の優先順位付けと着実な実行

## 国力の再浮揚(≠国家の均衡ある発展)



# 会議運営について

---

## 【目的】

- 国家の重要政策課題について、優先順位付けとバランスチェックを行い、優先度の高いテーマ・課題に絞って、その実行のための議論を行う
  - したがって、既に別の会議体で議論されているテーマ（TPPや税・社会保障一体改革など）に関して重複した議論は不要だが、議論の節目や大きな方向性の決定に際しては、当会議で議論する
  - 必要に応じ、与党との協議・連携を図る
  - 民間議員の提出資料（共同作成の民間議員ペーパーを含む）も活用する

## 【対象】

- 国家の重要課題の中で、優先度の高いもの
  - ※ 私の考える優先政策課題は、まずは「成長戦略」であり、政策およびそれに係るすべての規制・制度改革（例えば、省庁割り振り型の予算編成のあり方）を含む
  - ※ 既に出揃っている政策について、壁を突破し、一つでも多く実行に移すことで、実績を示し、次のフェーズに繋いでいく